

第14分科会 行動問題に対する指導・支援

実態把握図の作成と授業における支援
～通常学級担任の立場から～

令和8年10月16日(金)

上越市立保倉小学校

金子 千恵

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

現行の学習指導要領総則

2 特別な配慮を必要とする児童への指導 (1) 障害のある児童などへの指導

ア 障害のある児童などについては、特別支援学校等の助言または援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

「何を、どのように工夫していくか」は授業者に任されている

実践にあたって

方法

実践

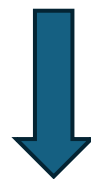
成果と課題

通常の学級担任としての悩み

学級経営や交流および共同学習において
どのような支援を行っていったらいいのか



個や学級をどのように導いたらいいのかが明確でない



手探り状態の手立てでは、児童のトラブルが続く

実践にあたって

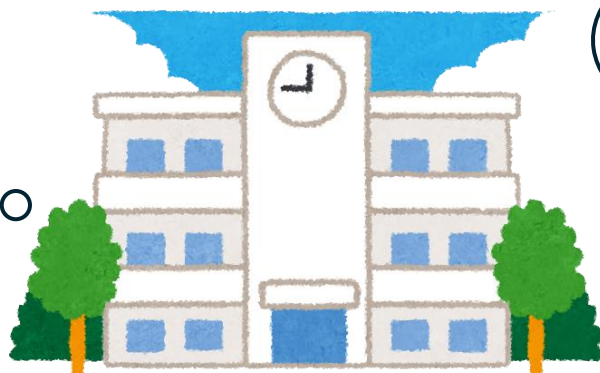
方法

実践

成果と課題

自立活動の
研修が不十分

本校の実態



個別の指導計画
作成・活用の
体制づくりが
未整備

専門家と連携



自立活動における個別の指導計画作成
活用の実践研究を行う機会をいただく

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

本研究の目的

専門家と連携した個別の指導計画作成の実践研究



通常学級担任としての課題

学級経営や、交流及び共同学習における手立てをどうすれば良いのか

解決につながるかを検証する

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

特別支援学級担任との連携はあるものの、交流および
共同学習が展開される通常学級での対応は分からない
ことが多い。

教師間の連携に課題があるのではないかな？



「小学校等の教師を自立活動の本質的理解に導く
学習機能を埋め込んだ個別の指導計画システム」
安藤（2021）を参考にした実践を行う。

安藤が実践した「個別の指導計画作成システム」

安藤(2001;2021)「個別の指導計画作成システム」

- ・複数教師が関与して実態把握を行い、個別の指導計画作成する手続きを重視
- ・一人の教師の憶測や独断で把握することを防ぎ、心理的負担感や不安感を軽減

➡教師間の児童の課題の捉えのズレや指導・支援の差を解消できる

安藤隆男(2021)新たな時代における自立活動の創生と展開.教育出版.川島書店.

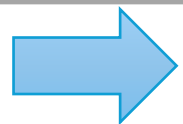
池田彩乃・安藤隆男(2012)個別の指導計画の作成及び活用に小学校の通常学級教師が主体的にかかわるための研究.障害科学研究,36,135-143.

一木(2021)

教師は担当する子どもの指導に則して学ぶことで、自らが抱える実践上の不安を払拭としたい考える

➡必要な助言を得る機会として、個別の指導計画作成システムのプロセスが研修の機会になる。

一木薫(2021)特別支援教育のカリキュラム・マネジメント-段階ごとに構築する実践ガイド-」慶応義塾大学出版会.



専門家の助言を得ながら、協働モデルを実践

実践にあたって

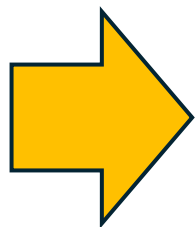
方法

実践

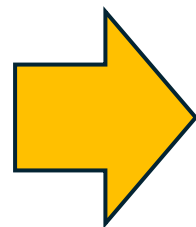
成果と課題

実践の流れ

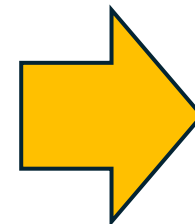
① 情報収集と
実態把握図の作成



② 個別の指導計画の
作成と支援・指導
の実行



③ 中間評価と改善



④ 二学期評価と改善

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

実践の流れ 2年計画で、校内指導体制の充実を目指した

1年目	1年生A児		実践の流れ①～④を 外部専門家と連携
2年目	3年生B児		実践の流れ①を 外部専門家と連携

1年目に学んだことを活かし、2年目は校内職員のみでも体制が作れるようにした。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

1年生A児への校内指導体制の充実（1年目）

コロナ禍でコミュニケーションに制限のある保育園時代を過ごす



<A児の様子 4月～6月>

- ・教師が話しかけても、黙っていることが多い。
- ・学級内の特定の友達、同じ班の上級生に嫌なことをして、トラブルになることがある。
- ・いつ、どこで何をするか分からず、目が離せない。

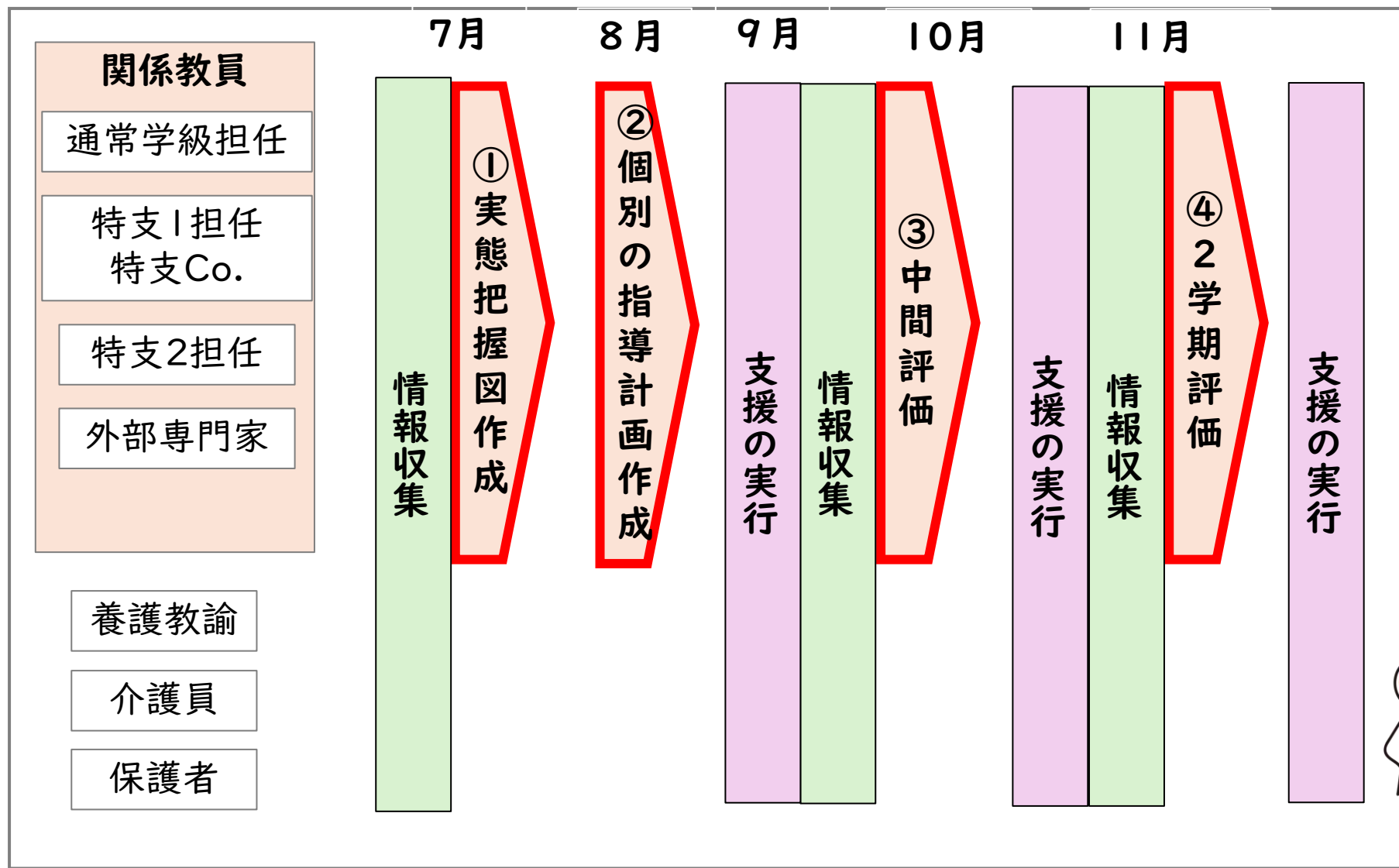
実践にあたって

方法

実践

成果と課題

外部専門家と連携した4回の支援ミーティングの実施



①情報収集と実態把握図の作成（外部専門家先導） **状況と行動**

①情報収集(事前の準備)

院生と教職員で対象児童の情報を付箋紙にて収集する。1つの情報につき、1枚の付箋紙に書き出す。

あれ？おや？と
思う姿

②島づくりと表札

集めた付箋紙を自立活動の6区分に分ける。似ている内容が書かれた付箋紙を集め、内容を要約した「表札」をつける。(集まった付箋紙は「島」という)

③島同士の関連付け

島同士の関連をおさえるために、記号でつなぐ。対象児童の実態が目に見える形で整理された段階で、実態把握図の完成となる。

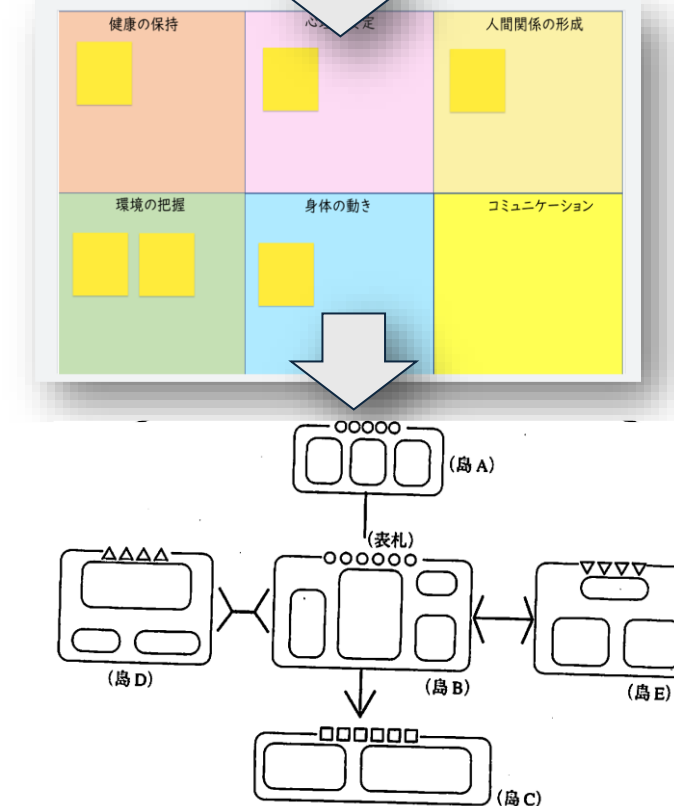
④課題の抽出

実態把握図から捉えられる中心課題を対象児童の担任を中心に関係する教職員と文章に表す。

⑤課題の設定

中心課題から、目標を設定する。

全体指示を聞くときに、
下を向いて指をかまっている。
(7/4、国語、〇〇)



実践にあたって

方法

実践

成果と課題

集めた情報を自立活動6区分シートに当てはめる



黒板を見て、連絡帳を書くのに時間がかかる。

関係教員の働きかけに対して、**無言**や**無反応**が多い。

大便を漏らしてしまった時に自分から言えなかった。

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成
(1)生活リズムや生活習慣の形成に関すること (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること (4)障害の時製の理解と生活環境の調整に関すること (5)健康状態の維持・改善に関すること	(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること
4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)保有する感覚の活用に関すること (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動に関すること (5)認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関すること	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること (3)日常生活に必要な基本動作に関すること (4)身体の移動能力に関すること (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2)言語の受容と表出に関すること (3)言語の形成と活用に関すること (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

②個別の指導計画の作成と支援・指導の実行

課題

健康・体調・気持ち

自分の体調や気持ちがよく理解できていない。

他者とのかかわり方

大人のいない所で相手の嫌がる行動をしてトラブルになる。

強み

認知面

字を丁寧に書くことができる。
視覚認知の強さがある。

言語・コミュニケーション

かかわりたい気持ちや助けてほしいことを言葉や態度で伝え、うまくいった経験が少ない。



Aさんの体調や気持ちへの理解や表現が難しいことに気づき、この部分への支援が必要と感じた。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

②個別の指導計画の作成と支援・指導の実行

～A児について～

- ・排泄や体調など自分の身体のことや自分のおかれている状況を理解できず自分の気持ちや困っていることを伝えられずにストレスを感じている可能性がある。
- ・自分からかかわりたい気持ちや助けてほしいことを言葉や態度で伝え、うまくいった経験が少ないため、物理的にかかわりの多い子に対して、大人のいないところで相手の嫌がる行動をしてトラブルになっている。
- ・相手とのよりよい接し方を学習したり、自分の体調や気持ちの変化に気付いたりする必要がある。一方、好きなことに集中して取り組んだり、特定な人には自分からかかわることができるようになってきたことから、今後はより他者とかわる経験を通して状況を理解し、自分の体調や気持ちを言葉で伝えられるようにする指導が必要である。また、家庭での過ごし方を保護者と連携し、把握する必要がある。
- ・情報の認知や理解する力に弱さがあり、言葉の表出も少ないため、視覚的な支援を取り入れながら言葉を獲得させるとともに、本児の言葉や行動を引き出すような周囲の大人のかかわり方が大切である。

①自身の健康面の変調に気づき、気持ちや体調を伝えることができる。

②言葉を使って他者と適切にかかわることができる

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

②個別の指導計画の作成と支援・指導の実行

長期目標	①自分の体調や気持ちの変化に気付き、自分の言葉で身近な大人に対して伝えることができる。 ②友達とのよりよい接し方を学習し、周りの人とのかかわりを増やす。
短期目標	①自分の体調や気持ちについて知り、介護員さんと一緒に絵カードなどを使って身近な先生に伝えることができる。 ②教師の促しを受けながら、身近な大人や友達と簡単な言葉のやりとりができるようになる
支援内容・支援方策	・言葉カードを使って語彙を増やし、体調や気持ちを表す言葉を学習する。(特) ・週初めのスピーチタイムで友達に対して言葉で伝える機会を確保する。(特) ・ソーシャルスキルに関する教材(カード,かるた)を使って、必要なスキルを学習する。(特) ・安心して活動に取り組めるように事前に活動の内容を伝えたり、活動や思考が停滞する様子が見られた時に声掛けをしたりする。(特・通) ・「一緒にやってください」、「手伝ってください」等の援助要求の言葉を練習をする。(特・通) ・朝の会の健康観察で自分の体調を伝える機会を設ける。(通) ・帰りの会の「今日の気持ちコーナー」で自分の気持ちを理由を添えて伝えたり、友達の気持ちを知る機会を設ける。(通)

→通常学級で行う支援が明確になった。

A児への支援を中心に2学期からの学級経営を考えた。

②個別の指導計画の作成と支援・指導の実行～通常学級～

I 自分の健康や気持ちを表現できるようにする支援

II 学級やグループの中で自分の考えを伝え合う自立活動の指導

A児の中心課題や、自分の気持ちを他者に伝えることに課題があるクラスの実態を踏まえても、特別なSSTが必要であると判断された。外部専門家の出前授業（ミニトーク）でモデルを示してもらいながら、通常学級担任と外部専門家が協働してミニトーク（SST）の指導を行った。

III 生活科の動物飼育で他者とかかわる場面を設定

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

I 自分の健康や気持ちを表現できるようにする支援

通常学級の「朝の会 健康観察」

通常学級担任が自身の身体を通して自らの健康状態を詳しく話す。



教師が、自分の身体を触りながら

先生は、少し喉が痛いです

特別支援学級の「自立活動の時間」

特別支援学級担任が、児童の身体に触れながら、児童の様子を捉える。



教師が、児童の身体に触れながら

痛いのは肩？

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

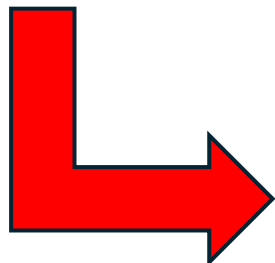
I 自分の健康や気持ちを表現できるようにする支援

A児にかかわる教師が、**それぞれの立場で児童の身体的・心理的状态を感じ取ることを継続する。**

体の部位を示したポスターを掲示する。



今日さ、ちょっと喉
痛かった



自身の身体を指さしたり、ポスターを見たりしながら
体調の変化を言語化して伝える場面が増えた。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

I 自分の健康や気持ちを表現できるようにする支援

帰りの会「今日の気持ちコーナー」

表情の絵の掲示物の中から自分の気持ちに近いものを選ぶようにした。



今日の気持ちはかなしいです。

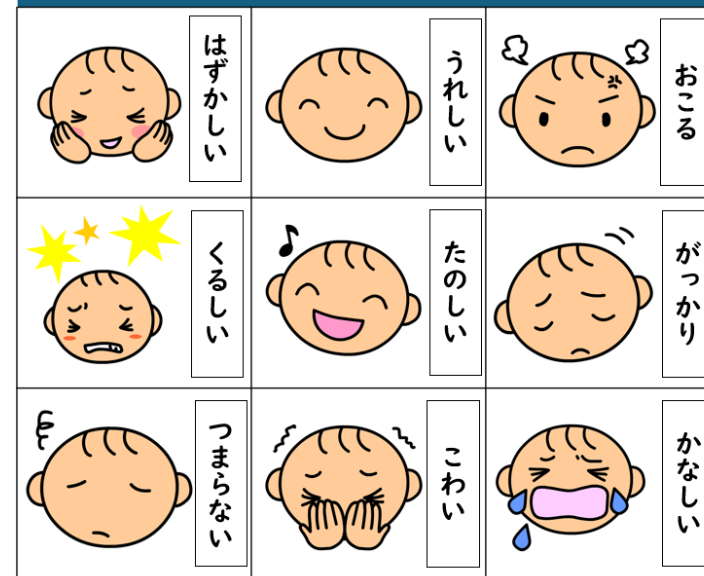
どうしてそう思ったの？



だってさ、○さんとケンカした



どんな きもち？



自分の気持ちへの気づきが徐々に言語化されるようになっていった

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

Ⅱ 学級やグループの中で自分の考えを伝え合う自立活動の指導

テーマ例

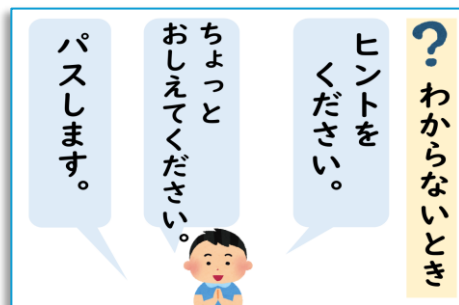
「お出かけするならどこがいい?」「好きなアイスの味は?」

「海の生き物の言葉あつめ」など

大人を入れた少人数
グループトーク
→安心感・話しやすい

意図的に友達と
かかわる機会を設定

イラスト入りの絵カード
反応・応答・自発語を促す



実践にあたって

方法

実践

成果と課題

Ⅱ 学級やグループの中で自分の考えを伝え合う自立活動の指導

児童の実態から想定した
テーマで役割演技

STの役割①
良い姿をす
ぐに褒める

STの役割②
言葉を引き出
す支援

STの役割③
児童同士の
言葉を繋ぐ



- 答えられない時は、提示した絵カードを見て自分から「パスします」と伝えるようになった
- 他の児童の意見に対して、身体表現で「いいねサイン」を出すようになった
- 聞く時に相手を見ることや、話す時に声の大きさを意識して話すようになった
- 見通しをもち、安心して活動に参加できた

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

Ⅲ 生活科の動物飼育や人権教育で他者とかかわる場面を設定

動物飼育で、協力してやり遂げる場面を設定

人権教育で特別支援学級担任と連携し、SSTの手法を活用



最初は嫌がっていた動物の世話も自分から進んで行うようになった。
小グループの中で、自分の思いを表出できる場面が増えてきた。

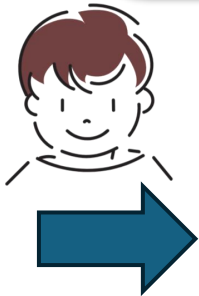
③ 中間評価と改善

自分から身近な職員に体調を伝えられるようになった。表情も明るくなった。嫌な時に友達に言葉で気持ちを伝えることまだ難しい。

少しずつ言葉でかわることができるようになり、トラブルが減った。しかし、他児のよくない行動につられて真似をすることが多い。

カタカナやアルファベット、車や電車の絵をかける空間認知の力がある。一方、反応がゆっくりで話や指示を理解するまでに時間がかかる。

つぶやきや伝えようとする場面が増えた。語彙が少なく、言葉の発達はまだ幼いが、自分なりの言葉で話している。他児の真似をして楽しい段階。見てほしい気持ちがある。



A児が自分の健康状態を理解し、言葉で説明できる姿が増えた
通常（交流）学級が安心できる環境となり、自分の意思を表出できるようになったと考えられる

③ 中間評価（10月）と改善

自分から身近な職員に体調を伝えれるようになった。表情も明るくなった。
嫌な時に友達に言葉で気持ちを伝えることまだ難しい。

SSTのテーマを追加

内容～メインテーマは「こんな時どうする？」

落とし物を拾ったら

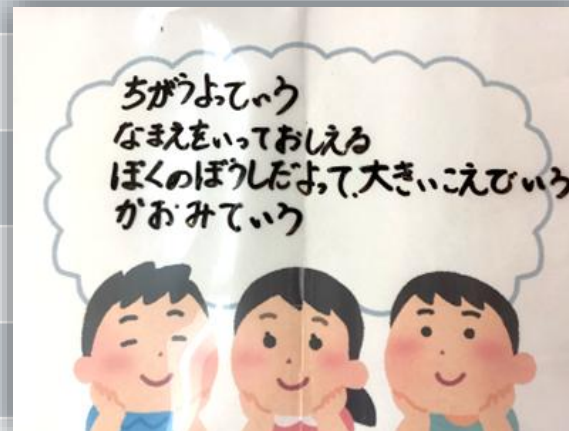
仲間に入れて欲しい時

物を借りたい時

困った時

「どんな気持ちクイズ」

「私は誰でしょうクイズ」



外部専門家と協働し、A児の実態からテーマを設定



実際の場面を取り上げることで、その時どう伝えればよかったかが分かり、SSTで表出できるようになった。

実践にあたって

方法

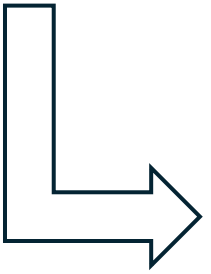
実践

成果と課題

③ 中間評価（１０月）と改善

少しずつ言葉でかかわることができるようになり、トラブルが減った。
しかし、他児のよくない行動につられて真似をすることが多い。

異学年との交流の場の設定



異学年と関わることで、学級の中でのよくない行動が減った。
つられてしまうことも少なくなった。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

④ 2学期評価と改善

助けてほしい時に、援助要求の言葉がまだ言えない。

つぶやきは増えたが、伝えたいことが相手に届かないことが多い。相手の反応があることが嬉しく、嫌なことをしてしまう。

コツが分かると、自分で黙々と進める場面が増えた。

自分からの表出が増えてきた。



自分からの表出が増え、A児が新たに成長した姿が見られた。相手に伝えたいことが正しく届くようにする支援が必要。

A児の得意を活かせる場を増やしていく。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

④ 2学期評価と改善

交流学級の担任を中心に

絵をかくことが得意で車が好きなことを活かし、生活科でお店屋さんごっこを開く。車のイラスト屋さんを開き、クラスや年長児との交流を楽しむ。

特別支援学級の担任を中心に

郵便屋さんになりきって届ける活動。
「今日は、ハガキたくさんあった!」
はりきって全校に届ける姿が見られる。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

A児の成長と課題

<成長>

- ・無言や無反応が多かったA児の発話が増え、自分からコミュニケーションを取ろうとする姿が増えた。
- ・1学期は、思いつきで行動して、相手を傷つけてしまうトラブルが多かったが、2学期以降は減った。
- ・他者と関わることに興味が高まり、他者との関わりを楽しむ姿が増えた。

<課題>

- ・2学期以降、相手とコミュニケーションを取ろうとする姿が増えた反面、相手の反応を楽しむことに起因するトラブルが増え始めた。



他者への興味が高まり、反応があることへの喜びを感じ始めた

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

学級の成長にも



QUで学級生活満足群増加、「承認」得点増加

A児：侵害行為認知群へ：友達と関わりたいが、自分の言葉で伝えきれないことにもどかしさを感じている可能性がある。

→学校生活における個別の支援を続けていく必要がある。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

学級の成長にも SSTに関する項目で肯定的評価増加

学校評価アンケート結果の比較から

①自分の思ったことを進んで伝えようとしている



②いじめや仲間はずしをしないで友達を大事にする



③自分の良いところや友達のいいところと言える。



1年生の学級の様子

- ・少人数の中で意見を伝える ことへの安心感が増した。
 - ・全員が安心して自分の状態や考えを伝えるようになった。
 - ・授業の中でも、友達の発言に対して「いいね!」や拍手を送るなど、温かい雰囲気が出来ていった。
- **A児への支援は、学級全体への支援**になっていた

3年生B児への 校内指導体制の充実（2年目）

<B児の様子 4月～6月>

- ・授業中、落ち着きがない。
- ・話をよく聞かず、同じことを繰り返してしまい、注意を受けることがある。
- ・気持ちのコントロールが難しいことがある。



実践にあたって

方法

実践

成果と課題

個別の指導計画の作成と支援・指導の実行（外部専門家との連携）

健康・体調

アトピー性皮膚炎があり、体の痒みがある。それがストレスとなっている可能性がある。

他者とのかかわり方

誰かの役に立ちたいという強い気持ちがある。

強み

課題

認知面

ルールがはっきり決まっていないことに対してどう行動するかが分からない。

言語・コミュニケーション

相手が強い態度で接すると、同じように強い態度で接してしまうことがある。



①Bさんの強みを取り入れた授業を構想すること②日々の生活で曖昧な部分を明確にしたり、穏やかな態度で接したりすることを意識しようと感じた。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

個別の指導計画の作成と支援・指導の実行

長期
目標

- ①落ち着いた気持ちで、周りの人とかかわる。
- ②今やるべきことは何かを理解し、適切な行動を増やす。

短期
目標

- ①落ち着いた気持ちで、学級の友達とかかわる。
- ②教師の助言を受けながら、適切な行動を増やす。

支援
内容
・
支援
方策

- ・1日の予定を視覚的に掲示したり、集中しやすい座席に配置したりする。(通)
- ・ルールを守った行動は即座にほめる。(通)
- ・不適切な行動に対してすぐに注意するのではなく「〇〇するといいよ」と声をかけていく。(通)
- ・学級の係活動などで、クラスみんなの役に立つ経験を増やす。(学)
- ・繰り返し同じ行動をしてしまった時にも、穏やかな口調で伝える。(学)
- ・その都度、どのように行動するのかを「今は〇〇しますよ」と穏やかに伝えていく。(学)

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

個別の指導計画の作成と支援・指導の実行 ～B児の強みを活かした授業構想～

学級活動でクイズ大会を主催

総合的な学習の時間で遊びを考案

友達から「Bさんのお陰で楽しかった」と言われ、嬉しそうな表情を浮かべていた。

難易度の異なる3つパズルを用意することを提案した。上級生から好評だったことを喜んでいた。



授業で自分のアイディアが活かされ、他者に喜んでもらえたことへの満足感・自信の高まりが見られた。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

個別の指導計画の作成と支援・指導の実行 ～廊下や教室で繰り返し走ってしまう行動に対して～

実態把握前

B児の背後から



走らないよ!

と伝える

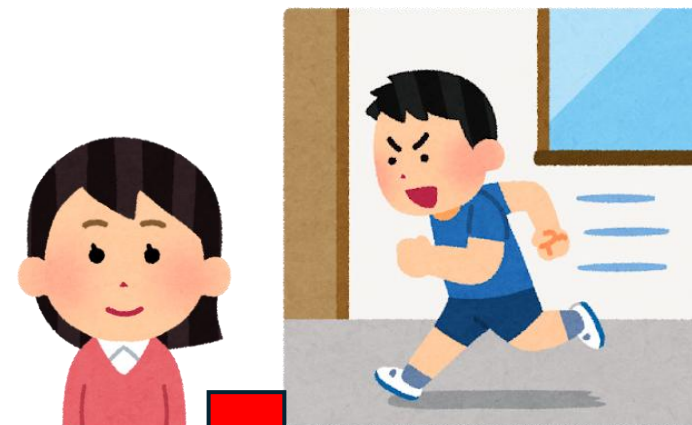
また同じことを繰り返し注意を受ける

実態把握後

B児の前に行って

Bさん、廊下
は走りません。
歩きますよ。

と伝える



今すべきことを目の前で伝えたと、まちがいを繰り返すことが少なくなった

B児の成長

WEB QU結果の比較から

B児の承認得点増加

- 注意される回数が減り
穏やかに過ごせるようになった。
- クラスの役に立つ経験を重ねたことで、自信をつけた。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

学級の成長にも



QUで学級生活満足群増加、「承認」得点増加。
担任のかかわりが変わったことで、クラス全体の満足群も増加した。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

<成果>

- ・実態把握図作成に主体的に取り組むことで、**対象児の学習上生活上の困難が明確**になった。
- ・**多くの職員で導き出した支援策は、その子にあうものであり**
本実践は自立活動の研修の機会となった。
- ・通常の学級でも特別支援学級でも同じ方向を向いて支援することで、「**一人ではない。みんなで支援している**」という**安心感**があった。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

- ・対象児に関わる職員の子どもも理解、特別支援学級担任との**連携の仕方が変わり、それがクラスに波及し、クラス全体の変容が見られた。**
- ・安藤（2021）を活用することにより、自立活動における個別の指導計画作成の意義・目的の理解が図られ、**通常学級担任としての課題の解決につながった。**

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

<課題>

- ・実態把握図作成時の島分けには、**自立活動に関する専門家の知見が必要**であると感じた。
- ・学校が組織として自立していくためには専門家からの助言が必要であり、外部機関とのつながりが必要である。

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

- ・本事例に取り組むことで、コーディネーターから組織的な取組にしていくことの意義について気づきが得られた。

→ **学校の組織的な取組として拡大していくことが課題である。**

実践にあたって

方法

実践

成果と課題

<引用・参考文献>

安藤隆男(2021)新たな時代における自立活動の創生と展開.教育出版.川島書店.

安藤隆男(2021) 自立活動における個別の指導計画の理念と実践.川島書店

池田彩乃・安藤隆男(2012)個別の指導計画の作成及び活用に小学校の通常学級教師が主体的にかかわるための研究.障害科学研究,36,135-143.

一木薫(2021)特別支援教育のカリキュラム・マネジメント－段階ごとに構築する実践ガイドー」慶応義塾大学出版会.